Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

8月号—No.268
2017.7.25
（毎月1回25日発行）

【承和色（そがいろ）】少しくすんだ黄色。

「そが（承和）」は「じょうわ」から転じた読み方であり、じょうわいろとも言う。承和年間（平安時代）に在位した仁明天皇が黄色い菊好きで衣装も黄色を好んだことから付いた色名。これが歌舞伎役者なら團十郎茶のように仁明イエローとでも呼ぶところだが、その替わりに元号を用いたのだろう。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
平成30年度助成要綱決定／ステージラボ高知セッション報告
財団からのお知らせ……6
平成30年度「公共ホール音楽活性化事業」実施団体募集／平成30・31年度「公共ホール音楽活性化事業」登録アーティスト決定／平成30年度「公共ホール音楽活性化支援事業」実施団体募集／公共ホール音楽活性化事業　平成30・31年度登録アーティスト実地研修 実施団体募集／平成30・31年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」実施団体募集／平成30年度「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」実施団体募集／平成30年度「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」実施団体募集／平成30年度「邦楽地域活性化事業」実施団体募集／理事会、評議員会の開催結果
今月の情報……9
地域通信
今月のレポート……12
東京都調布市
調布市文化会館たづくり「クリエイティブリユースでアート！」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

●平成29年9月30日(土)まで申請受け付け

平成30年度助成要綱が決定

平成30年度 助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作能力の向上及び公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

また、「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

●地域の文化・芸術活動助成事業

[1]創造プログラム

◎一般分

地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような顕著な工夫が認められる事業(最大3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)。

◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の企画制作力の向上や、他施設への波及効果をもたらす単年度の事業。

※創造プログラム(一般分)とは別枠で利用可能。

[2]連携プログラム

地方公共団体が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体が連携して、共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)。

[3]研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを目指す実践的な人材育成事業(1年間)。

[4]公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設の地域において果たすべき役割と、それを実現するための方策を登載した計画を策定する事業。

事業名		分野	事業実施者			
			地方公共団体			指定管
			都道府県	政令指定都市	市区町村	特定指定管理者(※)注1
地域の文化・芸術活動助成事業	[1]創造プログラム(一般分)	音楽 演劇 ダンス 伝統芸能 美術 等	○	○	○	○
	創造プログラム(企画制作力向上特別分)				×	都道府県・政令指定
	[2]連携プログラム				○	○
	連絡調整事業					
	[3]研修プログラム					
	[4]公立文化施設活性化計画プログラム					
地域伝統芸能等保存事業	[1]地方フェスティバル事業	地域伝統芸能等	○	○	○	○
	[2]映像記録保存事業		×	○	○	×
	[3]保存・継承活動支援事業					

●「地域の文化・芸術活動助成事業」に関する問い合わせ
総務部　岩藤
Tel. 03-5573-4164

●「地域伝統芸能等保存事業」に関する問い合わせ
総務部　山居
Tel. 03-5573-4056

●地域伝統芸能等保存事業

[1]地方フェスティバル事業

地方公共団体が実施する、地域固有の伝統芸能等を保存・継承するための公演事業に対して助成する事業。

[2]映像記録保存事業

市区町村が実施する、各地域の失われつつあり、且つ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業。

[3]保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業。

●要綱、申請書及び申請期限

・助成要綱等は、当財団のウェブサイト(http://www.jafra.or.jp/)に掲載しています。

・申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ**平成29年9月30日(土)必着**で提出してください。各市区町村等においては、都道府県等のとりまとめ団体の期限も確認し提出してください。

(参考)平成29年度「地域の文化・芸術活動助成事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
創造プログラム(一般分)	90	83
創造プログラム(企画制作力向上特別分)	17	15
連携プログラム	49	40
研修プログラム	19	18
活性化計画プログラム	1	0
合計	176	156

(参考)平成29年度「地域伝統芸能等保存事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
地方フェスティバル事業	11	11
映像記録保存事業	9	9
保存・継承活動支援事業	15	14
合計	35	34

理者			会場	助成措置			申請期限
一般指定管理者(※)注2	特定公益法人(※)注1	実行委員会等注3		助成率	助成の上限額(1年ごと1団体ごとの金額)	対象期間	
○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1/2以内	1,000万円	2年もしくは3年	平成29年9月30日(土)必着
都市に係る指定管理者、特定公益法人、実行委員会等 ○						1年間	
○	○	○		2/3以内	500万円 ※連携する事業全体で3,000万円	1年間	
					100万円	事業前年1年間	
				2/3以内	200万円	1年間	
				2/3以内	200万円	2年以内	
○	○	○(保存会も含む)	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1/2以内	都道府県等:200万円 市区町村等:50万円	1年間	
×	×	×		2/3以内	200万円		
				1/2以内	30万円		

左表脚注

※
特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。
一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1
設置者である地方公共団体の長の副申書を添付

注2
設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成

注3
地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額を助成対象

●ステージラボ高知セッション

地域という社会関係の中で文化芸術に取り組む意義とは？

ステージラボ高知セッション報告

2017年7月4日～7日

写真

左上：ホール入門コース「廃材と循環するモノ・コト・ヒト」（廃材すごろくの様子）

右上：自主事業Ⅰ（音楽）コース「ワークショップゼミ：音楽の姿発見①　糸の音と技」（二胡奏者の鳴尾牧子さん）

左下：自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース「舞台芸術は消えゆく伝統を救えるのか？」（和紙づくりに挑戦）

右下：共通プログラム「ペーパームーン・パペット・シアター　新作人形劇『和紙を透かして』（インドネシア）―共同制作体験―」

●コースコーディネーター
◎ホール入門コース
大月ヒロ子（有限会社イデア 代表取締役／国立歴史民俗博物館 客員准教授）
◎自主事業Ⅰ（音楽）コース
中村透（作曲家／芸術文化学博士／琉球大学名誉教授／（一財）地域創造顧問／前南城市文化センターシュガーホール芸術監督）
◎自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース
大谷燠（NPO法人DANCE BOX 理事長・エグゼクティブディレクター／神戸アートビレッジセンター館長）

今回はホール入門、自主事業Ⅰ（音楽）、自主事業Ⅱ（舞台芸術）の3コースが開講されました。会場となったのは、平成11年度に次いでラボ2度目の開催となる高知県立美術館です。約400席のホールを併設し、海外カンパニーを招聘するなど四国におけるコンテンポラリーダンスの拠点としても知られています。共通プログラムでは、アーティスト・イン・レジデンス事業で滞在中だった「ペーパームーン・パペット・シアター」（インドネシア）のマリア・トリ・スリスチャニさんらによる新聞紙を使った人形づくりとパフォーマンスのワークショップも行われました。

公立ホールをめぐる環境や制度が目まぐるしく変わる中、今回のラボでは、実務的な研修プログラムというより、創造活動の本質や地域という社会関係の中で行うことの実像にふれるゼミが多く組まれ、刺激的なラボとなりました。

●自主事業Ⅰ（音楽）コース

音楽コースのコーディネーターを務めたのは、昨年退任するまで長年にわたり南城市のシュガーホール芸術監督を務めてきた作曲家の中村透さんです。はじめに、受講生は地元のまちの印象深い音楽シーンを発表し、各々の問題意識をもって、2日目、3日目の丸2日にわたり演奏家とがっぷり四つに組んだコラボレーションにチャレンジしました。

2日目は二胡奏者の鳴尾牧子さんとチェロ奏者の井尻兼人さんを招き、それぞれの楽器について歴史・構造・奏法・響きなどを詳しく学習。それを踏まえて、楽器別のチームに分かれ、美術館に収蔵されているシャガールの絵などからイメージしたシーンを演奏家と協力しながら言葉と音楽で表現する創作体験が行われました。

3日目は歌三線奏者の大城貴幸さんのチームが河童の民話などをモチーフに、ピアニストの前田克治さんのチームが谷川俊太郎の詩などをモチーフに、音楽シーンづくりに挑戦しました。発表では、音だけで世界を体感してほしいと、聴衆を後ろ向きにしたブラインドパフォーマンスが行われるなど、演奏家と受講生が一体となって創意工夫した2日間となりました。

●自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース

舞台芸術コースでは、神戸市長田区で公設民営のダンス専門劇場「Art Theater dB神戸」を運営するNPO法人DANCE BOX理事長・エグゼクティブディレクターの大谷燠さんがコーディネーターを務めました。DANCE BOXでは、コンテンポラリーダンス事業だけでなく、地域を巻

き込んだ「みんなのフェスティバル」などアートによるまちの活性化に力を入れています。

今回はまず、ダンスに馴染みのない受講生に対し、舞踊評論家の乗越たかおさんを講師に招いた4時間にわたる講義が行われました。世界の最先端のダンス映像を次々に流しながら、“コンテンポラリーダンス”の固定概念を取り払う切り口で解説。「ダンスがアートとして人生の真実を伝えるものだとしたら、美しいものだけを見せるのがダンスではない…新しいダンスとして変わった動きをどうつくり出すかに希望をもった時期があったが、これは勘違いだった。時に魅力的なダンスが新しく見えることがあるが、ヒップホップのヘッドスピンもボードビルの中にすでにあったもの。新しさを求めるのではなく、魅力的なダンスとは何かに視座を置いて考えるべきだ」など、示唆に富んだ講義が続きました。

受講生が3日目に向かったのは、高知市内から車で1時間半、和紙で有名ないの町です。こうぞ刈り、和紙漉き、和紙を衣装や美術で用いている地元パフォーマーへのヒアリング、「小さい学校だからできること」を合い言葉にコミュニティ・スクールとして活性化に取り組んでいる神谷小中学校など、文化芸術が地域社会とともにあることの意味に向き合いました。

最終日には、ダンスを地域の活性化に生かしている具体例として、八戸市の「南郷アートプロジェクト」も紹介され、色々な可能性を感じた研修となりました。

●ホール入門コース

ホール入門コースのコーディネーターを務めたのは、倉敷市玉島で廃材を活用するクリエイティブリユースの拠点「IDEA R LAB」を運営する大月ヒロ子さんです。クリエイティブリユースとは、日常的に生み出される廃材をクリエイティビティ(創造力)により生まれ変わらせる取り組みのこと。廃材を新たな資源として評価するだけでなく、廃材の宝庫である地域のものづくりの現場と繋がり、コミュニティに働きかける手段としても注目されています。

まず、受講生は、LABが考案した「廃材カード」(色々な廃材の写真を掲載したトランプカードのようなもの)を使ったイマジネーションゲームを行い(*)、廃材の不思議な魅力と可能性について体感しました。そして3日目には、「仕事の道具」を通じて地域や文化にアプローチするワークショップを行っている岡亜希子さん(NPO法人体験学習研究会プログラムコーディネーター)と共にまち歩き。ものづくりの現場(仕立て屋、和紙工房、彫金工房、石材店など)や、高知県立美術館の仕事人(学芸員、警備員、照明スタッフ、アーティストなど)を訪ね、「仕事の道具」を切り口にインタビューを行い、広報誌としてまとめて発表しました。

磨がれて刃が短くなった洋裁包丁、3代にわたって使い継がれている和紙漉き用のハケ、学芸員の必需品であるLEDペンライト、妻からもらったポーチを使い続けている警備員さんなど、こうした道具への思いを通じて「仕事とは?」「ものづくりとは?」「地域とは?」を原点に立ち返って考える貴重な機会になりました。

＊基本ルールは、親が手持ちのカードから1枚を選んで出し、カードを伏せたままその廃材のイメージを言う。子は自分の手持ちの札からそのイメージに一番近いものを伏せて出し、場に出された札をシャッフルして表にし、その中から親の出したカードを当てるというもの。

ステージラボ高知セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ(音楽)コース	自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース
第1日	開講式／オリエンテーション・施設見学等		
	「はじめに」 大月ヒロ子	「インタラクションゼミ：コミュニティ音楽のワークショップとわがまちの音楽風景を語る」 中村透	「ワークショップ形式の自己紹介／アートと地域社会を多様な角度からつなぐ。NPO法人DANCE BOXの活動事例の紹介」 大谷燠
	全体交流会		
第2日	「ステージラボに参加して考えたこと」 水野茂樹、大月ヒロ子	「ワークショップゼミ：音楽の姿発見①　糸の音と技」 鳴尾牧子、井尻兼人、中村透	「世界の最新ダンスと、「次のダンス」を生み出すツボを探る①」 乗越たかお、大谷燠
	「廃材と循環するモノ・コト・ヒト」 大月ヒロ子	「企画デザインゼミ①A：糸の音・音楽シーンをつくる」 鳴尾牧子、井尻兼人、中村透	「世界の最新ダンスと、「次のダンス」を生み出すツボを探る②」 乗越たかお、大谷燠
	「仕事の道具から知る歴史と文化」 岡亜希子	「企画デザインゼミ①B：糸の音・音楽シーンをつくる／発表と合評」 鳴尾牧子、井尻兼人、中村透	「実験その1ダンスで遊ぼう!」 セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)、大谷燠
	共通プログラム 「ペーパームーン・パペット・シアター 新作人形劇『和紙を透かして』(インドネシア)―共同制作体験―」		
第3日	「街に出よう①」 大月ヒロ子	「ワークショップゼミ：音楽の姿発見②　声とことばのリズム」 大城貴幸、中村透	「実験その2ダンスを作ろう!」 セレノグラフィカ、大谷燠
	「街に出よう②」 大月ヒロ子	「企画デザインゼミ②A：声と物語の音楽シーンをつくる」 大城貴幸、前田克治、中村透	「舞台芸術は消えゆく伝統を救えるのか?」 浜田あゆみ、大谷燠
	「館内インタビュー」 岡亜希子	「企画デザインゼミ②B：声と物語の音楽シーンをつくる／発表と合評」 大城貴幸、前田克治、中村透	
	「経験のシェアからカードづくり」 岡亜希子	「ケース・スタディ：わがまちのレガシー：シュガーホールと市民ミュージカル」 大城貴幸、中村透	
第4日	「コミュニティーのホールの広報資料づくり」 岡亜希子	「ディスカッション：わがまちの音楽シーンを構想する」 中村透	「地域とダンスが出会うアートプロジェクト」 大澤苑美、大谷燠
	「振り返り」 大月ヒロ子	「レクチャー：おんがく・ひと・コミュニティ」 中村透	「ゼミ全体の振り返り」 大谷燠
	修了式		

財団からのお知らせ

●「公共ホール音楽活性化事業」事業実施要綱および事業申込書等は、当財団のウェブサイトに掲載しています。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/

●「公共ホール音楽活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　三浦
Tel. 03-5573-4078
onkatsu@jafra.or.jp

●平成30年度「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業は、オーディションで選ばれたクラシック音楽のアーティストと専門家のコーディネーターを公共ホールに派遣し、ホールとアーティストが共同で企画した学校や福祉施設等での地域交流プログラムやコンサートを実施することにより、公共ホールの利活用の促進やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援するものです。

内容の詳細は、当財団ウェブサイト掲載の実施要綱をご確認ください。皆さまのご応募をお待ちしております。

募集締切：9月25日（月）必着

◎対象団体
次の市町村等を対象とする。
①市町村（特別区を含み、政令指定都市を除く）
②市町村の公共ホール指定管理者　など

◎事業内容
3日間の連続した日程で、次の事業を実施する。
［公演］公共ホールで開催する有料のクラシック音楽コンサート　1回
［地域交流プログラム］学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業　4回（1日につき2回）

◎経費負担・支援内容
- 演奏家派遣経費（出演料、現地移動費を除く交通費、宿泊費等）
- 地域交流プログラムに係る経費（主にピアノ調律費：10万円限度）
- コーディネーターの派遣
- 全体研修会（事業実施に必要なノウハウ等の研修）および個別研修（現地下見）の実施

平成30・31年度「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」登録アーティストが決定しました

© Riho Suzuki

●岡田 奏（おかだ かな）［ピアノ］
ダイナミックな演奏と煌びやかで情感に富んだ音楽性が各地で絶賛を博す。函館市生まれ。15歳で渡仏し、パリ国立高等音楽院のピアノ科、室内楽科、修士課程を最優秀で卒業・修了、第3課程を修了。小林研一郎指揮東京フィル、シモン・ボリバル響、ベルギー国立管、東響、名古屋フィル、中部フィル等と共演。2013年プーランク国際ピアノ・コンクール優勝、2016年エリザベート王妃国際音楽コンクールのファイナリスト。

●中野 翔太（なかの しょうた）［ピアノ］
ジュリアード音楽院、同大学大学院卒業。これまでにデュトワ指揮／N響、小林研一郎指揮／読響、小澤征爾指揮／ウィーン・フィル等と多数共演。最近ではジャズの松永貴志と即興も交えた2台ピアノの演奏も、各地で好評を得ている。2014年にはアシュケナージ指揮／N響と共演、好評を得る。CDはこれまでに3枚をリリース。いずれもレコード芸術誌で特選盤に選出される。第15回出光音 楽賞受賞。

© Taira Tainadate

●糸賀 修平（いとが しゅうへい）［テノール］
島根県出身。武蔵野音楽大学卒業。同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第10期修了。2010年、文化庁新進芸術家海外研修制度研修生としてイタリア・フィレンツェに留学。2012年12月より（財）ローム・ミュージック・ファンデーションの音楽在外研究生としてドイツ・ベルリンに留学。新国立劇場、ロームシアター京都、東京文化会館、日生劇場、愛知県芸術劇場など、主要な劇場で数多くのオペラに出演。二期会会員。

●泉 真由×松田 弦（いずみ まゆ×まつだ げん）［フルート、ギター］
（泉）桐朋学園大を首席で卒業。フルートコンヴェンションコンクール第1位。CDをリリース、記念リサイタルを日本各地とパリで開催。洗足学園音大講師。（松田）東京国際ギターコンクール第1位。ウィーンのコンツェルトハウスでソロリサイタル。フランス、オーストリア、スペインに留学。キングレコードよりメジャーデビュー。CDをソロ等で7枚リリース。2010年よりデュオを結成。2人の出身である高知県をはじめ全国的に活動を展開。

●酒井 有彩（さかい ありさ）［ピアノ］
文化庁新進芸術家在外研修員。ベルリン芸術大学を最優秀で卒業、国家演奏家資格取得。浜松国際ピアノアカデミーにてプロミシング・アーティスト賞。最年少参加にてマルサラ市国際第2位。ジュネーブ国際セミファイナリスト。ブゾーニ国際ファイナルスカラシップ。レオポルド・ベラン国際第1位。CHANEL Pygmalion Daysアーティスト。ヤマハミュージックメディア【mysound】ハイレゾ特集にて演奏を配信中。

●田中 拓也（たなか たくや）［サクソフォン］
東京藝術大学音楽学部および同大学院修了。
第25回日本管打楽器コンクール第1位、並びに特別大賞受賞。
第6回アドルフサックス国際コンクール入賞。
ブルーオーロラサクソフォンカルテットアルトサクソフォン奏者。
洗足学園音楽大学非常勤講師。

©井村重人

●山本 奈央（やまもと なお）［オカリナ］
複数のオカリナを使い分け、楽曲を活かすことを得意とする注目の若手オカリナ奏者。3歳よりエレクトーンやピアノを通じて幅広く音楽に親しみ、関西大学在学中にフルートを始める。卒業後福祉職在職中にオカリナと出会い、2013年からオカリナ奏者としての活動を開始。2014年より大阪府河内長野市文化振興財団（ラブリーホール）主催のソロ公演やアウトリーチに参加。2017年1月、ソロアルバム「めぐり逢い」をリリース。

●アーバン・サクソフォン・カルテット［サクソフォン四重奏］
「一流の音楽を身近に」をコンセプトに、洗練された音楽を多彩なアプローチで届け続けている。（一財）地域創造 公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業 2014年度島根セッション 派遣アーティスト。第20回ブルクハルト国際音楽コンクール 室内楽部門審査員賞（部門最高位）受賞。第17回 大阪国際音楽コンクール アンサンブル部門 エスポワール賞受賞。第五回 サンハートアンサンブルオーディション 最優秀賞 聴衆賞 長浜ホール賞 アルソ出版社賞受賞。

●平成30年度「公共ホール音楽活性化支援事業（おんかつ支援）」実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）実施団体を対象とした2カ年にわたるフォローアッププログラムです。おんかつで蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う市町村等に対して財政的な支援を行います。なお、登録アーティストのプロフィール等の資料は、本事業の対象団体に送付させていただきます。

募集締切：9月25日（月）必着

◎対象団体
おんかつ事業を平成28年度または29年度に実施した市町村等。また、おんかつ支援事業を29年度に初めて実施した市町村等。

◎対象アーティスト
公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト

◎支援内容
以下の①および②に係る経費の支援1年目：2/3、2年目：1/3を地域創造が助成します。
①演奏家に係る経費
出演料およびマネジメント料（上限あり）、交通費（現地移動費を除く）、宿泊費、日当、楽器運搬費（現地運搬費を除く）、損害保険料
②地域交流プログラムに係る経費
ピアノ調律料のみ（10万円限度）
※助成上限額等の詳細については、要綱をご確認ください。

●公共ホール音楽活性化事業　平成30・31年度登録アーティスト実地研修　実施団体募集

新たにオーディションで選ばれたおんかつ登録アーティストの実地研修として、公共ホール担当者との協働により実際に各地域でアウトリーチプログラムの実践を行うために、過去のおんかつ実施団体からご協力いただける団体（3～4団体）を募集します。

［期間］平成29年11月～30年2月のうち連続した2日間
［場所］公共ホールおよび域内小学校
［内容］1日目：ホールにてアウトリーチのランスルー等
　　2日目：小学校でのアウトリーチと振り返り等
［経費負担］派遣にかかる旅費や謝金、ピアノ調律費を地域創造が負担
※詳細は実施要領および留意事項をご参照ください。

●平成30・31年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」実施団体募集

この事業は、クラシック音楽のアウトリーチ手法および事業展開のノウハウを地域に蓄積するため、都道府県等と地域創造の共催により、都道府県全域の公共ホール担当者等を対象にしたシンポジウムのほか、新進演奏家と共にアウトリーチ手法を開発する研修、域内市町村でのアウトリーチ、市町村および都道府県規模のクラシックコンサートなどを、2カ年にわたり実施するものです。

事業を通じて、公共ホール音楽活性化事業（おんかつ事業）で培われたノウハウを都道府県へ伝達するとともに、地域でアウトリーチを担う人材の育成や都道府県の公共ホールを核とした音楽関係者・公共ホール関係者のネットワークづくりを支援します。

実施要綱などの詳細は当財団のウェブサイトをご覧ください。

募集締切：8月31日（木）必着

◎対象団体
①都道府県
②都道府県の公共ホールの指定管理者等

◎事業内容
［研修事業］都道府県が主体となって、シンポジウム、全体研修会、アウトリーチ研修等を実施する。
［市町村公演事業］以下のプログラムを域内の4ないし6市町村で実施する。
①地域交流プログラム：学校でのアウトリーチ（ミニコンサート）など、地域との交流を図る事業を6回（1日につき2回）実施する。
②コンサート：市町村の公共ホールで、有料のクラシック音楽演奏会を1回実施する。
［総括公演プログラム］都道府県の公共ホールで、派遣演奏家全員が出演する有料のクラシック音楽演奏会を1回実施する。

◎地域創造による経費負担・支援内容
・演奏家に係る経費（出演料、交通費、宿泊費、楽器運搬費補助等）
・事業経費の一部
・専門家（コーディネーター等）の派遣

●「公共ホール音楽活性化支援事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　工藤
Tel. 03-5573-4185

●「公共ホール音楽活性化事業　平成30・31年度登録アーティスト実地研修」に関する問い合わせ
芸術環境部　三浦
Tel. 03-5573-4078

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　米山
Tel. 03-5573-4059

財団からのお知らせ

●「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　工藤
Tel. 03-5573-4185

●「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　菊地
Tel. 03-5573-4064

●「邦楽地域活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部　阿比留
Tel. 03-5573-4069

●理事会、評議員会の開催結果

6月7日に第112回理事会、21日に第81回評議員会が開催され、平成28年度決算、事業報告および公益目的支出計画実施報告が承認されました(詳細は財団ウェブサイトに掲載)。
また、評議員会では、監事1名の辞任に伴い、新たな監事が選任されました。

●平成30年度「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」実施団体募集

文化庁の「文化芸術による子供の育成事業(芸術家の派遣事業)」と連携し、「芸術家派遣事業に対する支援活動」および「公演事業」に対して助成を実施します。おんかつ支援事業のノウハウを活かした効果的なアウトリーチ事業を広げるとともに、公共ホールの活性化を目的とし、5カ年継続のプログラムを自主的に行う市町村等に対して財政的な支援を行います。

募集締切:8月25日(金)必着

◎対象団体
これまでにおんかつ支援事業を実施した市町村等

◎対象アーティスト
公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト

◎支援内容
以下の①および②に係る経費の支援1年目:8/10、2年目:2/3、3年目:1/2、4・5年目:1/3を地域創造が助成します。
①「公演事業」に係る経費
出演料およびマネジメント料(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、楽器運搬費(現地運搬費を除く)、損害保険料
②「芸術家派遣事業」に係る経費
ピアノ調律料のみ
※助成上限額等の詳細については、要綱をご確認ください。

●平成30年度「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」実施団体募集

この事業は、音楽アウトリーチのノウハウを政令指定都市等に普及することを目的として、政令指定都市等との共催により、公共ホール等を拠点とした音楽の演奏家による地域交流プログラムに関する研修会等を実施します。

事業を通じて、公共ホール音楽活性化事業(おんかつ事業)で培われたノウハウを政令指定都市等へ伝達するとともに、地域でアウトリーチを担う人材の育成や、公共ホール関係者のネットワークづくりを支援します。

募集締切:8月25日(金)必着

◎対象団体
①政令指定都市　②政令指定都市の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体　③政令指定都市が資本金、基本金等を出資している法人で地域創造が特に認めるもの

◎事業内容
①研修会プログラムの策定
地域創造が派遣するアドバイザーと共同し研修会プログラムを策定する
②研修会等の開催
当該しないおよび周辺市町村の公共ホール職員、文化行政担当者、教育関係者およびアーティスト等を対象とした地域交流プログラム並びに文化・芸術による地域づくりに関する研修会等を開催する。

◎経費負担・支援内容等
・アドバイザー等の派遣
・講師の派遣
・研修会等に係る対象経費(30万円を限度)
※詳細は実施要綱等をご覧ください。

●平成30年度「邦楽地域活性化事業」実施団体募集

この事業は、都道府県・政令指定都市等のホールが主体となり、市町村のホールと連携し、邦楽分野での学校アウトリーチやワークショップ、コンサート等を実施するものです。本事業を実施することにより、住民に邦楽の魅力にふれる機会を提供するとともに、アウトリーチ等のノウハウを獲得することができます。詳細については、当財団のウェブサイト内に掲載しております実施要綱をご覧ください。

募集締切:9月25日(月)必着

◎対象団体
都道府県、政令指定都市(公共ホールの指定管理者を含む)等

◎事業内容
[研修プログラム]邦楽事業の制作手法や考え方を、事業参加者をはじめとした地域の関係者が理解・共有する研修会と、参加演奏家と地域交流プログラムの中身を具体化する合宿形式の研修会を実施する。
[地域交流プログラム]
・学校でのアウトリーチを原則4回(1日につき2回)
・市町村ホールでのホールプログラム(ワークショップ等)を1回
[総括公演プログラム]都道府県等のホールで参加演奏家が出演する有料のコンサートを1回実施する。

◎地域創造による経費負担・支援内容
・演奏家に係る経費(報酬、現地移動費を除く旅費、楽器運搬費等)
・各プログラムに係る経費の一部
・専門家(コーディネーター等)の派遣

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　宇野・高澤

●2017年10月号情報締切
9月1日(金)

●2017年10月号掲載対象情報
2017年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●札幌市
札幌芸術の森(札幌市芸術文化財団)
〒005-0864　札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-592-4125　大橋諒
http://sapporocityjazz.jp/

SAPPORO CITY JAZZ 2017「North JAM Session」
11回目を迎えた、札幌の夏を彩るジャズフェスティバルのフィナーレを飾るライブ。チック・コリア、スティーヴ・ガッドをはじめとするプロミュージシャンのほか、ワークショップを経た市民が参加する100人規模のゴスペルクアイアや、オープニングアクトとして札幌ジュニアジャズスクールも出演する。
[日程]8月26日　[会場]札幌芸術の森 野外ステージ

●北海道釧路市
釧路市立美術館
〒085-0836 釧路市幣舞町4-28
Tel. 0154-42-6116　武東祥子
http://www.pekita.net/

静かな風を聴きながら 貼り絵・北海道63景 藤倉英幸展
JR北海道の車内広報誌の表紙絵を長く手がけていることで知られるイラストレーター・藤倉英幸の個展。一人旅を重ね、目に留まった風景を鮮やかな色彩と緻密な構成による貼り絵で表現し、北海道を叙情豊かに描き出す。各地に取材した63点に、釧路周辺の風景17点を加えた、計80点の作品を展示。
[日程]7月15日～8月27日
[会場]釧路市立美術館

●岩手県北上市
北上市文化交流センターさくらホール
〒024-0084　北上市さくら通り2-1-1
Tel. 0197-61-3300　高橋裕亮
http://www.sakurahall.jp/lineup.php

さくらホールオリジナル盆踊り大会 さくら盆ジュール2017
盆踊りのオリジナルダンスとして、ダンスカンパニーコンドルズが制作した「はやて」を踊り、ブラックボトムブラスバンドによる「はやて」ブラスバージョンのパレードを楽しむ一夜。また、郷土芸能「小鳥崎さんさ」を地域学区の中学生中心に披露し、参加者総出で踊る。
[日程]8月12日
[会場]さくらホール野外特設会場

●仙台市
仙台市市民文化事業団
〒981-0904　仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5(日立システムズホール仙台内)
Tel. 022-301-7405　佐々木彩
http://web.midc.jp/bunka/event/shousai.php?id=10062

オリジナルミュージカル『仙台ねこ』
同事業団の設立30周年を記念し市民と共に取り組んだ、本格的なミュージカル。作・演出・振付は梶賀千鶴子、音楽は日高哲英、照明は塚本悟と一流スタッフが揃う。約1年のレッスンを経た100人余りの市民が、仙台ならではの地域の魅力を再発見し、そこで生きる人々の喜びや尊さを表現する。
[日程]8月19日、20日
[会場]日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)

●宮城県大河原町
えずこホール
〒989-1267　柴田郡大河原町字小島1-1
Tel. 0224-52-3004　星井理賢
http://www.ezuko.com/

えずこシアター第20回演劇公演『ほぼ、夏の夜の夢』
仙南圏域の住民劇団「えずこシアター」による20回目の公演。同劇団は、地域内での表現活動を積極的に展開し、地域における住民劇団の可能性を広げながら着実に前進している。講師は劇団山の手事情社の倉品淳子。今回はシェイクスピア『夏の夜の夢』をアレンジした作品を上演する。
[日程]8月26日、27日
[会場]えずこホール

●宮城県七ヶ浜町
七ヶ浜国際村
〒985-0803　七ヶ浜町花渕浜字大山1-1
Tel. 022-357-5931　鎌田徹也
https://www.shichigahama.com/kokusai//

七ヶ浜アート・ウォリアーズ2017「七ヶ浜。夏+の発見伝」
アート・ウォリアーズは、夏の芸術祭として美術・音楽・舞台芸術など多岐にわたるイベントとして1993年にスタート。今年は美術家のすがわらじゅんいちによる3.11の教訓を後世に伝えるべく奇跡の花を植えるワークショップ、3.11後の七ヶ浜の光景を映し出す本郷浩写真展などが行われる。
[日程]7月17日～9月8日
[会場]七ヶ浜国際村

関東

●埼玉県越谷市
越谷コミュニティセンター
〒343-0845　越谷市南越谷1-2876-1
Tel. 048-985-1113　纐纈龍治
http://www.suncityhall.jp/

夏休みこどもワークショップ参加者による作品展　未来アート工房！4 ～未来の学校をつくろう！展～
子どもたちがモノヅクリを通した自由な表現を楽しみ、仲間たちと共に考え、アイディアがカタチになる喜びや達成感を実感してもらう企画。14回目となる今年は、30名の小学生が“未来の学

校づくり”に挑戦し、作品は無料で一般公開される。講師は、越谷市在住の矢生秀仁(こども環境デザイン研究所代表)。ワークショップOB・OGや保護者もサポートする。
[日程]8月4日～6日
[会場]サンシティホール

作品づくりの様子

●埼玉県秩父市
秩父宮記念市民会館
〒368-8686 秩父市熊木町8-15
Tel. 0494-24-6000 島田
http://www.city.chichibu.lg.jp/6955.html

秩父宮記念市民会館開館記念公演ちちぶオペラ『ミカド～Town of Chichibu～』

新しい市民会館のこけら落とし公演。秩父地域の出身者や在住者を中心としたソリストや合唱団が出演するほか、地域の子どもを含む若者たちで編成されたダンスチームも参加。すべて日本語で、台詞の中に秩父弁を加え、地域に伝わる屋台囃子を取り入るなど、秩父地域ならではの個性豊かな舞台を目指す。
[日程]8月20日
[会場]秩父宮記念市民会館

●千葉市
千葉市文化振興財団
〒260-0013 千葉市中央区中央2-5-1
Tel. 043-221-2411 熊田・斉藤
http://www.f-cp.jp

千葉市民創作ミュージカル『夜空に咲く夢―芋神様がくれたもの―』

オーディションで選ばれた小学4年生から80歳代までの約60人のメンバーが、プロの講師陣から演技や歌、ダンスの稽古を受け、千葉市発信のオリジナル・ミュージカルを披露する。作品は、財団の公募により寄せられた17の作品から大賞となった原作『海辺の町・遠い海』(有冨久子作)を元に、千葉市を舞台として書き下ろされたオリジナル。
[日程]8月27日
[会場]千葉市民会館

●東京都墨田区
すみだトリフォニーホール
〒130-0013 墨田区錦糸1-2-3
Tel. 03-5608-5404 飯嶋絢子
http://www.triphony.com/

オルガン・コンサート＆バックステージ・ツアー 小学生対象《夏休み自由研究スペシャル》

パイプオルガンの演奏後、スタッフのガイドでステージや楽屋、オルガン演奏台など、普段は入れない舞台裏を見学する演奏付きバックステージツアー。車椅子利用の人や視覚に障がいのある人など各回対象をさまざまに年間6回行われ、夏休み時期の今回は、小学生を対象とした自由研究にも使える内容で実施する。
[日程]8月2日
[会場]すみだトリフォニーホール

●東京都武蔵野市
武蔵野生涯学習振興事業団
〒180-0023 武蔵野市境南町2-3-18
Tel. 0422-30-1901 逸見智子
http://www.placefesta.jp

プレイス・フェスタ2017

図書館、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の4機能を融合した武蔵野プレイスが毎夏実施している総合イベント。今年のメインとなるのは、世界各地で行われている、お金を使わずにモノやスキルを交換する「リアリー・リアリー・フリーマーケット」。ほかにも青少年ライブやパネル展示、山崎亮氏の講演会などさまざまなプログラムにより、「ひと・まち・情報」を通した新しい出会いを提供する。
[日程]7月13日～30日
[会場]ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス

●横浜市
横浜みなとみらいホール
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6
Tel. 045-682-2020 白川美帆
http://www.yaf.or.jp/mmh/index.php

おやこオペラ教室2017～オペラ「笠地蔵」日本の昔ばなし～

毎年夏休みに開催しているオペラ体験プログラム。今年は松井和彦作曲のオペラ『笠地蔵』を題材に、第1部「ワークショップ」で体を動かしながら歌を練習し、第2部「オペラをみてみよう!」で練習した歌でオペラに参加する。ステージ上に客席をつくることでオペラを間近に体験できる。
[日程]8月12日、13日
[会場]横浜みなとみらいホール

●横浜市
横浜市青葉区民文化センターフィリアホール
〒227-8555 横浜市青葉区青葉台2-1-1
Tel. 045-985-8555 芥川・中島
http://www.philiahall.com/

フィリア・サマーフェスティバル2017

夏休みにホールを一日開放するフェスティバル。初日はフィリア・ジュニア合唱団や馬頭琴などのミニコンサート、ワークショップ、館内ツアーなど終日さまざまなイベントが催され、2日目は慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラによるファミリーコンサートが行われる。
[日程]8月4日、5日
[会場]フィリアホール

●神奈川県小田原市
おだわら文化事業実行委員会
〒250-8555 小田原市荻窪300
Tel. 0465-33-1709 冨士原・小山
http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/culture/event/odamyu.html

おだわら市民ミュージカル『小田原時空写真館』

平成26年度から行われてきた市民参加のワークショップにより、発掘したエピソードを重ね合わせ、小田原の地域・歴史・文化を題材にしたオリジナルのミュージカルを制作。一般公募によりオーディションを行い、出演者を決定。公演支援ができる市民スタッフの育成にも取り組み、人材ネットワークの構築を目指す。
[日程]8月26日、27日
[会場]小田原市民会館

●静岡市
静岡音楽館AOI
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1-9
Tel. 054-251-2200 小林旬
http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp/

AOIのオープン・デイ2017

毎年恒例となっているパイプオルガンコンサートや館内ツアー、楽器体験、リハーサル観覧などを行うホール開放イベント。楽器リペアサービスや、常葉大学短期大学部音楽科学生によるロビーコンサート、同館と科学館の共同事業による音楽のサイエンスショーなども行う。
[日程]8月5日
[会場]静岡音楽館AOI

●愛知県刈谷市
刈谷市美術館
〒448-0852 刈谷市住吉町4-5
Tel. 0566-23-1636 古池幸代
https://www.city.kariya.lg.jp/museum/

斎藤吾朗の描けば描くほど モナ・リザ模写から赤絵へ

「母なる故郷」をテーマに、赤を大胆に使った絵画を描く斎藤吾朗の個展。日本人初となる《モナ・リザ》の公認模写をはじめ、新規コレクションとなった新作《三河刈谷の万燈祭》や、愛知の祭りや風物を描いた版画も展示。三河発の「赤絵」の軌跡をたどることで、愛知の魅力を再発見する。
[日程]7月22日～9月3日
[会場]刈谷市美術館

近畿

●三重県津市
三重県文化振興事業団
〒514-0061　津市一身田上津部田1234
Tel. 059-233-1105　清水・宇田
http://www.center-mie.or.jp/

M祭！2017　キッズ・アート・フェスティバル

毎年3,000人を超える参加者が訪れる県内最大級子ども向けイベント。県内唯一のジュニアオーケストラによるコンサート、図書館や博物館などそれぞれの特色を活かした連携イベントのほか、今年は、藤原康博ら地元出身アーティストと共にアート作品をつくり上げるプログラムを実施する。
[日程]8月6日
[会場]三重県総合文化センター

昨年の様子(ダンス体験プログラム「みんなあつまれ！ダンスワールド」)

●大阪府河内長野市
河内長野市文化振興財団
〒586-0016　河内長野市西代町12-46
Tel. 0721-56-6100　守谷有加
http://lovelyhall.com/

ラブリーホール・小ホール・ミュージカルVol.4『ムーンライトミステリー月の女神の秘密』

2010年初演のオリジナル・ミュージカル『ムーンライトミステリー』が、新曲3曲を加えてパワーアップし、小ホールバージョンで公演される。毎週本格的なレッスンを受けているラブリーホール・ミュージカルスクールの子どもたち68人が臨場感あふれる作品を上演する。
[日程]8月5日、6日
[会場]ラブリーホール(河内長野市立文化会館)

●大阪府箕面市
箕面市メイプル文化財団
〒562-0003　箕面市西小路4-6-1
Tel. 072-723-2525　神田尚
http://event.minoh-bunka.com/article/179811253.html

みのおキッズシアター with末成由美 第12弾　きたかぜの神話「舞い上がれ！夢の羽」編

吉本新喜劇の末成由美と「みのおキッズシアター」の子どもたち(役者26人、ダンサー6人)が創る、笑いあり涙ありのオリジナル舞台公演。キッズシアターOB・OGによるサポートチームの協力支援を受けつつ、演技やダンスの練習を積み重ね、全員が輝ける舞台づくりを目指す。
[日程]8月26日、27日
[会場]箕面市立メイプルホール

●兵庫県川西市、猪名川町、大阪府豊能町、能勢町
のせでんアートライン妙見の森実行委員会
〒666-0292　川辺郡猪名川町上野字北畑11-1(能勢電鉄内)
Tel. 072-792-7716
http://www.noseden-artline.com/2017/

のせでんアートライン2017 里山の学校芸術祭

兵庫県と大阪府をまたぐ能勢電鉄の沿線地域にて、「里山の歴史と知恵を五感で遊ぶ」をテーマとし、各自治体が民間事業者・地域住民・地域団体などとの間で相互に連携し協働して取り組む芸術祭。今年は堀尾貞治+現場芸術集団「空気」、大西伸明、笹岡由梨子らが参加する。
[日程]7月22日～8月27日、10月28日～11月5日
[会場]川西能勢口、黒川+吉川、地黄+野間、大島、妙見各エリア

●兵庫県芦屋市
芦屋市立美術博物館
〒659-0052　芦屋市伊勢町12-25
Tel. 0797-38-5432　渡邉茉央
http://ashiya-museum.jp

「交差するアーティストたち—戦後の関西」展

創作活動に制限のあった第二次世界大戦の後、関西で起こった美術の動向を、当時の作家同士の交流を通して紹介するコレクション展。神戸から大阪を範囲とする地域ゆかりの作家(長谷川三郎、吉原治良、津高和一)を柱に、当時の関西で生まれた活動を振り返る。
[日程]7月15日～9月18日
[会場]芦屋市立美術博物館

●兵庫県伊丹市
伊丹市立美術館
〒664-0895　伊丹市宮ノ前2-5-20
Tel. 072-772-7447　岡本梓
http://artmuseum-itami.jp/

開館30周年　O JUN×棚田康司「閲(せめぐ)」展

画家・O JUNと彫刻家・棚田康司との大規模な一騎打ちとして、両者が出会って20年という節目に二人展を開催する。本展のために制作された新作をはじめとする約150点の展示に加え、会期中には両氏による公開制作も行われ、共鳴と緊張を併せ持った2人の関係性を間近で見ることができる。
[日程]7月8日～8月27日
[会場]伊丹市立美術館

中国・四国

●広島市
広島県民文化センター
〒730-0051　広島市中区大手町1-5-3
Tel. 082-245-2311　砂田充教
http://www.rccbc.co.jp/event/kagura/

「広島神楽」定期上演～広島・島根交流特別公演～

広島神楽を正しく保存し、次世代に継承することを目的に、毎週定期的に公演を実施。今年度は4月から12月にかけて、県内の神楽団が週替わりで登場し、全39公演を予定している。今回の特別公演は、島根県浜田市より岩見神楽を招聘し、広く地域交流を図るとともに、全国有数の神楽どころの拠点を目指す。
[日程]8月19日
[会場]広島県民文化センター

九州・沖縄

●鹿児島県湧水町
鹿児島県霧島アートの森
〒899-6201　姶良郡湧水町木場6340-220
Tel. 0995-74-5945　田中信幸
http://open-air-museum.org/

森本千絵×中島信也〈森の中〉展～広告づくりの頭の中はアートの森～

広告デザインの世界で活躍する二人のクリエーターの展覧会。CDジャケットのアートワークや絵コンテ、美術セットなどを展示し、広告ができるまでの過程を紹介する。普段何気なく目にしているものがどのように生まれているかを知る機会となる。美術セットの前で撮影ができる参加型の展示も行われる。
[日程]7月13日～9月18日
[会場]鹿児島県霧島アートの森

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

東京都調布市

調布市文化会館たづくり「クリエイティブリユースでアート!」

上：「フィルム缶にアート!」の素材展示
中：日活調布撮影所の巨大な扉を使った「記憶のはがし方プロジェクト」のインスタレーション
下：招聘アーティストの宮田明日鹿さん(左)と総合プロデュースの大月ヒロ子さん

●「クリエイティブリユースでアート!―市内の端材や廃材をアートな目線で見直そう―」
[主催]公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
[会期]2017年6月17日～7月23日
[会場]調布市文化会館たづくり1階 展示室

＊1 宮田明日鹿 1985年生まれ。人の記憶の曖昧さをテーマに、家庭用編み機を改造し、写真を編み物にするなどの可能性を探るニット製作所「宮田編機」主宰。

＊2 記憶のはがし方プロジェクト
2014年発足。物の表面(凹凸)にインクを塗り、凸部分を拭き取り、その上から木工用ボンドを塗って乾かし、はがすという「はがし刷り」の手法により、物のさまざまな痕跡(記憶)をはがしとるプロジェクト。家屋の外面を1軒すべて剥がしとった「日本 家」(2016)など。

地域のものづくりの現場から日常的に生み出される廃材・端材を新たな資源として見直し、クリエイティビティ(創造力)によって生まれ変わらせるクリエイティブリユース。廃材の利活用というだけでなく、市民の参加により、ものづくりの現場とコミュニティが繋がる新たな手段として注目されている。

調布市文化会館たづくりでは、長年にわたって実施していた公募展を市民や若い人が参加しやすいアート展として刷新したいと、岡山県倉敷市玉島にクリエイティブリユースの拠点「IDEA R LAB」を開設した大月ヒロ子さんに相談。2013年度に「クリエイティブリユースでアート!」事業を立ち上げ、5年計画で取り組んできた。その3回目となる展覧会が6月17日から7月23日まで開催された。

調布市は日活調布撮影所などがある映画づくりのまちであるだけでなく、かつての特産品だった布を扱う生地屋や、桐朋学園がある音楽のまちらしい楽器工房など、ものづくりに関わる多様な事業所が立地している。今回はそうした28事業所が廃材の提供に協力。調布北高校美術部、美大生などの公募制作者と招聘アーティスト2組が作品づくりに挑戦した。

この展覧会は、まち歩きをしながら事業所を訪問して廃材集めを体験するワークショップ、作品づくり(好きな廃材を持ち帰り、イメージ画を作成し、作品制作)、会場でのセッティング(2～3週間)、来場者のための廃材遊び「フィルム缶にアート!」で構成されている。7月15日、作家によるギャラリートークの取材に行くと、入り口には廃材遊びのコーナーが設置されていた。撮影所から提供されたフィルム缶にさまざまな廃材が分類され、誰でも自由に空のフィルム缶に廃材をレイアウトして遊ぶことができる(その写真を投稿すると会場に展示される)。

展示室には、額縁の端材を駒のように並べてオーケストラに見立てた作品、ヴァイオリン工房から提供された歪みを直すための石膏型をレリーフのように飾った作品など、廃材からイメージを膨らませた作品が並んでいた。廃材を提供した画材奈良堂の渡辺幸男さんは、「人の手がかかるとそれぞれの人で発想の角度が違うからいろいろなものが生まれる。発想を変えることで廃材が生かされ、世界が広がった」と楽しんでいる様子だった。

招聘アーティストの宮田明日鹿(＊1)は、「佐藤家結婚式」という個人的なビデオを廃材として提供したテーラーサトウに興味を引かれて取材。洋服の型紙や結婚式の様子を編み物にした作品を展示。また、「記憶のはがし方プロジェクト」(＊2)の阿部大介と鷹野健は、日活調布撮影所の全面協力で、60年の歴史がある撮影スタジオの巨大な鉄扉や機材などの痕跡を「はがし刷り」の手法で写し取り、まるで記憶が物から脱皮したかのようなインスタレーションを展開。「物の表面にインクを塗り込むために触れているとそれを触っていた撮影所の人達と繋がっていく感じがして面白かった。日活というみんなの思いがある対象だったことでイマジネーションが広がると感じた」と鷹野。

大月さんは、「自分の生業から生まれてくる廃材は愛着のあるもの。だから廃材の出自が重要で、これを手掛かりにすると話しが広がって面白いし、廃材が思いの詰まったものになる。また、アーティストと市民が廃材という同じ素材で作品をつくることにより、どこをどう深めればアートになるのかがクリアになり、アーティストの仕事が理解できる。こうした交流が深まるよう会場でのセッティング期間を長くしている」と話す。

担当の河合理美さんは、「この事業に取り組んだことで財団と地域の事業所との関わりが密接になった。5年で一区切りだが、今後は『フィルム缶にアート!』を地域の学校に出前したり、福祉作業所や幼稚園といった団体で廃材アートに挑戦してもらう企画も考えたい」と夢を膨らませていた。

ギャラリートークでは、公募制作者のひとりひとりがその廃材に惹かれた理由を話していたが、その着眼点がそれぞれ異なることに驚かされた。クリエイティブリユースの醍醐味のひとつは、そういう発見力にあるのかもしれないと感じた。　(地域創造編集部・坪池／高澤)